



福島県立梁川高等学校

平成 31 年 1 月 21 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 36

大寒に入る日毎年初大師（星野立子）

1月20日は二十四節気の一つ大寒でした。一年で最も寒さが厳しい季節となりました。体調を整え風邪など引かぬよう日々を過ごしたいものです。上の句の作者である星野立子は、高浜虚子の次女で昭和を代表する女性俳人です。また、弘法大師の入寂した日が3月21日であることから、毎月この日に信徒の方々が大師堂へ参拝しますが、新年最初の日のことを初大師と呼びます。毎年、弘法大師ゆかりの寺院では、新年の風物詩となっています。ところで、弘法大師こと空海は真言宗の開祖として有名ですが、空海の残した漢詩文集に『性霊集』があり、その一節には「**心暗きときは、即ち遇うところごとく禍なり。眼（まなこ）明らかなれば途にふれてみな宝なり。**」という言葉があります。特に後半は、自分の心が明るく目が澄んでいれば、見るもの聞くものがごとく自分を豊かにしてくれる宝となるという意味です。年頭に当たり、この一年、大師の教えを心に刻み、一日一日を暮らしたいと思えます。

梁川ルネサンスと梁川高校について

戦後間もない梁川町では、文学、音楽、美術、演劇などの分野において、多くの文化サークルが誕生し、多彩な活動を展開しました。当時、戦地からの引揚者や復員者の中に専門家がおり、彼らの協力と指導のもとで、町民による文化活動が盛り上がりを見せたのです。その中心となったのは**青雲文庫**と**梁川芸術協会**でした。

青雲文庫は、昭和21年に読書を通じて郷土文化の向上を図る目的で設立された簡易図書館です。図書の貸し出しを行うほか、文学を中心に音楽、絵画、演劇、郷土史などの研究部門がありました。短歌部門の指導者であった**中木淳夫**は、本校国語科の教員であり、教え子からは地域の短歌会を支える人材が多数輩出しています。本校では、昭和23年の学制改革により県立高校昇格すると、生徒によるクラブ活動が盛んになりました。特に文芸部は学校新聞を発行し、生徒に散文、短歌、俳句、詩などの作品を発表する場を提供しました。昭和25年には機関誌「あけび」を発行、それはやがて「**裸木**」と名称を変え、梁川高校の生徒による文芸活動の中核になりました。

梁川芸術協会は、昭和21年に地域音楽に対する理解と啓蒙を図る目的で、愛好者によって設立されました。同協会は軽音楽部・ハーモニカ部・邦楽部・舞踊部の四部門から構成され、演奏会は町民から好評を博し、近隣町村の依頼で出張公演も行いました。昭和23年には県立高校昇格を祝う「劇と舞踊と軽音楽の夕べ」が行われ、生徒による演劇、ダンス、音楽の演奏が披露されるとともに、地域で結成された楽団がゲスト出演しています。

美術の分野では、青雲文庫の美術研究会、吐月森画会などのグループが盛んに活動しました。それでも本校の教員が指導的立場で活動を支えました。昭和22年に復員し教壇に立った**加藤泰治郎**、昭和26年から勤務した**丹治日良**の二人は忘れてはならない存在です。加藤と丹治は本校美術部の指導にも情熱を傾けました。また、梁川には疎闊していた彫刻家の太田良平が住んでおり、若い芸術家を指導しましたが、彫塑の盛んな梁川高校美術部に足を運び助言することもありました。太田の指導を受けた**菅野忠良**は、やがて昭和28年から20年の長きにわたり本校に勤務し、その指導のもとで美術部は県展に大量に入選するなど優れた業績を残しました。

のちに丹治は、この一連の文化活動を「**梁川ルネサンス**」と表現し、次のように振り返っています。「戦後の文化現象は、戦争からの解放によって全国的規模で出現したものであるが、梁川の場合はこれに加えて、**蚕都梁川と呼ばれて以来の文化の蓄積が、さまざまな好条件のもとに華開いたものであろう。**」しかし、昭和25年以降、文化活動の指導者達が梁川を去り、活動に参加した人々の溜まり場が消滅すると、「**梁川ルネサンス**」は衰退へ向かいました。私が注目したいのは、梁川高校の教員が多彩な文化活動の担い手となったことと、その指導の下で生徒達による文化活動が盛んになったことです。やがて、教員らが撒いた種は、生徒達による質の高い作品や創作に結実することになったのです。



「劇と舞踊と軽音楽の夕べ」のプログラム

【参考文献】「梁川町史第10巻 文化・旧町村沿革」

三学期
始業式が
行われま
した

1月16日（水）、3学期の始業式が行われました。年が明け平成31年が始まりました。今年は4月30日に天皇陛下が退位し、5月1日に皇太子殿下が新しい天皇に即位します。それに伴い元号が新しくなります。平成の時代が終わり、新しい時代が始まります。生徒諸君には気持ちを新たに良いスタートを切ること、言葉の力の大きさを自覚し責任を持って使うことが求められていること、3年生には有終の美を飾ること、1・2年生には高校時代にしかできないことに一所懸命取り組んで欲しいこと等を伝えました。



■ 1 学年探究学習「梁川のひみつ」

今年度、1 学年は「総合的な学習の時間」において探究的な活動を実施しました。梁川の歴史・文化・自然・産業に関連する地域素材をもとに、生徒達がテーマを決め課題を設定して調べ学習の結果を「梁川のひみつ」にまとめました。探究活動の結果については、11 月に行われた梁華祭で発表するとともに、活動内容をまとめた小冊子を作成し、このたび「やながわ町の駅」に置いていただくことになりました。地域の皆様方には、生徒達が取り組んだ活動の成果を見ていただき、ご意見やご指導をいただければ幸いです。今後も地域の様々な課題について探究活動を展開し、地域の良さを再発見したいと思います。



パソコン室でインターネットを利用して調べ学習をする生徒と笑顔で発表する生徒の様子

■ 校内で授業研究に取り組んでいます その5

○12月14日の1校時、赤坂真由実教諭による世界史の授業では、2年生がオスマン帝国の歴史について学びました。強大な軍力を有しヨーロッパ諸国に脅威を与えていたオスマン帝国が、どのように弱体化していったのか、その過程をわかりやすく指導していました。また、イェニチェリの軍楽隊の行進曲を流したり、モーツァルトの「トルコ行進曲」を流したりして、歴史が音楽に与えた影響に触れるなど、生徒の興味関心を高める意欲的な授業でした。

○12月17日の1校時、野崎万里子教諭による家庭総合の授業では、2年生が子どもの発育と発達について学びました。生徒達は子どもの心の成長には、親の愛情と言葉がけが大切であることを学習するとともに、子どもの心に自己肯定感を育てる言葉について考察しました。生徒を引きつける巧みな話術とワークシートの効果的な使用が随所に見られた授業でした。

○12月18日の3校時、舟山綾美教諭による音楽Ⅱの授業では、選択した2年生がスペイン民謡「ロマンス」をギターアンサンブルで演奏しました。個人練習から始め、次にグループ練習を行い、最後にグループごとに発表会が行われました。グループごとに目指す演奏について目標を設定させ、リーダーに発表させるたり、自己評価とグループ間評価を取り入れたたりするなど、生徒に主体性を持たせ、振り返りの時間も確保された授業でした。



■ 本の福袋を貸し出し中！

図書室では「本の福袋」の貸し出しを開始しました。司書の田代さんが面白い本を選びジャンル別に袋に入れ、皆さんを待っています。読書は読む者をワクワクする世界へ誘います。本の世界で知的な冒険の旅に出かけてみませんか。自分が選んだ袋には、どんな本が入っているか。乞うご期待！



■ 校内研修に積極的に取り組んでいます

【いじめ対策研修会】

1月11日、先生方による「いじめ対策研修会」が行われました。生徒指導部長の長澤敏浩教諭をコーディネーターに、グループごとに様々な事例についてディスカッションを行い、いじめの原因、いじめを防ぐ方法、事後の対応について意見を出し合いました。また、本校におけるいじめの未然防止について協議を行い、建設的で実際の意見が多数出されました。先生方は熱心に取り組んでいました。



【授業研究ワークショップ】

同日、「授業研究ワークショップ」が行われました。先生方はグループに分かれ、『梁高生が「深い学び」をする方法を考えよう』を目標に、自分が「深い学び」を授業にどう取り入れていくかを具体的に考えるとともに、考えやアイデアを発表し、情報の共有に努めていました。また、福島県教育研究発表会における早稲田大学教職大学院の田中博之教授の講演について、教務主任の佐藤美津子教諭から伝達も行われました。



グループごとにディスカッションする先生方

音楽部ミニコンサートが開催

1月20日、梁川小学校講堂において音楽部のミニコンサートが行われました。第1部では合唱を、第2部では吹奏楽による演奏を披露しました。保原高校合唱部、聖光学院高校ブラスバンド部の賛助出演をいただき、日頃の練習の成果を発表できました。来場された方々と共に楽しい時間を持つことができました。音楽部の生徒諸君、お疲れ様でした。

松本勇君が部長挨拶



校歌でオープニング